

防災・防犯

市の防災対策をさらに進めるために

市長 ①支援物資の搬送や募金活動のほか、東京都市長会の要請により2人の職員を派遣した。

幸田昌之議員(公明)

①熊本地震から新たな課題が見えてきたと思うが、災害協定は十分か。

②市庁舎の全壊、半壊を想定した業務継続計画の認識は。

市長 ①東日本大震災を教訓に必要に応じて災害協定を締結してきたが、熊本地震を契機にさらに必要な協定を研究していく。

②現在、全壊や半壊等の状況に応じた対応は計画には反映していない。こういった状況を想定した計画のあり方については、今後の検討課題と捉えている。

市の防災、防火への対応について

川里春治議員(政和) ①消防車が入れない道路等への対策は。

②消火栓の位置がわかりづら

いと聞いたが、その対策は。市長 ①小平消防署からは、地形や道路状況から消防活動に困難が想定される箇所を事前に把握し対応していると聞いている。

②消火栓標識を設置するなど位置が明確になるよう対策している。小平消防署や小平消防団では、点検及び調査を定期的

に実施し状況の把握に努めている。経験が必ず力になる被災地への職員派遣を積極的に

伊藤 央議員(政和) ①これまで市が行ってきた熊本地震被災地支援の内容は。

②今後、今までより積極的に職員を派遣するつもりはあるか。

②避難所では要配慮者や動物が苦手な人などへの配慮から屋外で飼育してもらうこととなる。

市民の防災意識を上げるための市の施策は

松岡 篤議員(政和) ①防災意識が低くなっている要因は。

②日々の生活の中で防災意識を上げる具体的な施策はあるか。

市長 ①東日本大震災後に高まっていた防災意識が時間の経過とともに希薄化してきたことが

主な要因と考えている。②災害時に備えた安全対策等を防災マップなどに掲載するとともに市報等で周知している。

男女共同参画や子どもの視点を踏まえた災害対策を

平野ひろみ議員(生え) 28年3月に要配慮者のための防災行動マニュアルを作成したが、妊産婦と子どもへの配慮等は。

市長 妊産婦には、避難所までの安全な避難や避難所での十分な栄養の摂取、間仕切りなどによる

休息や授乳等ができる環境の整備等が挙げられる。子どもには、身の安全確保のため近所

同士で声をかけ合って避難する等の啓発を行っていくほか、避難所でのアレルギーへの対応等により体調管理に配慮していく。

震災が起きた際の市の対応について

小林洋子議員(フオ) ①車で避難する人を想定しているのか。

②瓦れき仮置き場の設置を考えておくべきだが、検討状況は。

市長 ①地域防災計画では想定していない。車での移動は災害

応急等に支障を来すおそれがあるため、極力行わないよう研修

会等の機会を捉え周知していく。

②現状では仮置き場の候補地はほとんどない状況だが、今後

作成予定の瓦れき処理マニュアルの中で、適正な設置について検討していく。

津本裕子議員(公明) ①避難所の不足で自主避難した人たちへの支援態勢をどう構築するか。

市長 ①被害状況に応じ施設を一時的な避難所として利用できる

旨の協定締結について、市内の大学に働きかけを行っている。

②現在も自主防災組織の結成に向けた支援等を実施しており、引き続き啓発に努めていく。

細谷 正議員(共産) ①災害弱者に対しては一層の援助が必要だが、市の対応策は。

②防災備蓄品の避難所までの確実な運搬について、課題は。

市長 ①避難行動要支援者登録

救急医療情報キット

名簿を作成し関係機関等へ提供している。また、名簿に登録された人に、避難行動要支援者情報カードを保管する救急医療情報キットを配布している。

②特定緊急輸送道路における沿道建築物の耐震化が未実施の

建物が残っていることである。

石毛航太郎議員(フオ) ①法律が改正され、自殺対策の計画策定が市町村にも義務づけられたが、改正前に市で行っていた

自殺対策としての取り組みは。

市長 ①職員のゲートキーパー養成講座や教職員対象の講演会等を実施している。

②現在実施している自殺対策の継続、拡充を図るとともに、

国や都の動向を踏まえて、市の計画策定を検討していく。

虹川 浩議員(公明) ①10月からゼロ歳児を対象に定期接種が開始されるが、定期接種費用

はどうなる予定か。

市長 ①予防接種法のA類疾病

に分類されることが予定されて

いるため、無償での接種となる。

②実施に当たっては、財源の確保などの課題があるので、近

隣の動向等を注視していく。

津本裕子議員(公明) ①用水路活用計画で保全に指定された

東部地域の用水路のうち、水が流れていない用水路を今後どのように活用すべきと考えるか。

市長 ①引き続き保全に努めていくとともに、流水の確保に向

けた取り組みを研究していく。

②引き続き、地域の意見を聞きながら、その地域特性に合った整備や保全に努めていく。

山岸真知子議員(公明) ①都が鷹の橋から栄光橋までの間に設置したフットライトの点灯時間を、西武国分寺線の最終電車

に合わせるべきだが、見解は。

市長 ①防犯面等からも重要で

あることから都に要望していく。

コミュニケーションを考える

会や地域の意見を聞きながら慎重な検討が必要と考えている。

佐野都夫議員(政和) ①小川駅西口再開発事業の課題は何か。

市長 ①事業成立が見込める事業計画案の作成が現在の課題である。今後も再開発準備組合に

できる限りの支援をしていく。

②現在、道路幅員の考え方等の課題整理を行っている。今後、

必要となる都市計画変更については、関係機関との調整を進め、

事業化に向けて取り組んでいく。

優先整備路線に選定された3・4・19号線整備の早期実現を

永田政弘議員(政和) ①事業認可を受けるための課題は。

市長 ①市施行区間の南側は市街地再開発事業により施行する

区間と、北側は東久留米市が施行する都市計画道路と接続することから、事業の整合を図るために各施行者と連携しながら事業化を目指すことが課題である。

状での交通安全対策の検討は。

市長 ①駅の東西を気軽に往来できるルートにより、東西の交流がより促進するよう現在の通路の活用も含めて検討していく。

②警視庁に対して信号機の設置を要望したほか、点滅灯や誘導線を設置するなど地元の要望を受け、適宜対策を講じている。

小川駅西口再開発と周辺のまちづくりについて

市内駅前周辺の再開発事業等によるまちづくりについて

小野高一議員(政和) ①小平駅北口地区市街地再開発事業の

予定は。

②青梅街道駅前から新小平駅周辺の区域について、用途地区及び風致地区の制限を緩和し、

まちの活性化を図れないか。

今年度における小川駅西口地区再開発と周辺環境などについて

細谷 正議員(共産) ①再開発事業の推進として予算計上された東西自由通路の検討内容は。

②小平都市計画道路3・4・10号線こぶし通りについて、現

医療健康

公園用水

都市整備



玉川上水緑道に設置されたフットライト